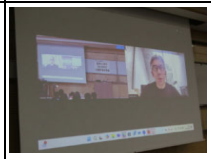
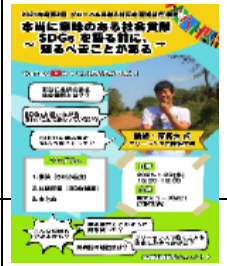
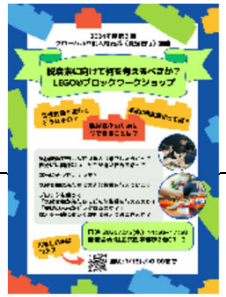
R6年度　SDGs推進室　活動報告書

No.	活動内容	研究者氏名	研究者所属	タイトル	活動の詳細	関連するSDGs	写真・動画・ホームページなど （※文字をクリックすると、該当ページへ移動します。）
1	教育	高橋　真	農学研究科	令和６年度えひめ環境大学における講演「人工化学物質の光と影：DDT, PCBそしてPFAS」	愛媛県では、環境先進県を目指して、学識経験者や環境分野の専門家を講師として迎え、「えひめ環境大学」を毎年開講している。令和６年度の「えひめ環境大学」の第１回講義は、高橋　真が担当し、人工化学物質によるヒトや生態系に対する影響について、過去に発生したDDTやPCBに関する問題や現在社会的に注目されているPFASの問題について解説した。	3 すべての人に健康と福祉を 4 質の高い教育をみんなに 14 海の豊かさを守ろう 15 陸の豊かさも守ろう	えひめ環境大学
2	教育	佐藤　哲	SDGs推進室	マラウイからの留学生の屋久島調査	10月30日-11月2日にマラウイから愛媛大学大学院理工学研究科修士課程に留学しているTalandila Kasapil さんと指導教官のChristoph Rupprechtさんとともに Kasapilaさんの研究フィールドである屋久島を訪問し、研究の戦略について地域の方々と議論した。	14 海の豊かさを守ろう 15 陸の豊かさも守ろう	
3	教育	小林　修	国際連携推進機構	地球沸騰時代に森が切り拓く未来可能性～森の中で、森について学び、森のために行動し、そして森と共にあるくらしを実現するには～	えひめ森の案内人会（講演）	4 質の高い教育をみんなに 13 気候変動に具体的な対策を 15 陸の豊かさも守ろう	
4	教育	小林　修	国際連携推進機構	愛媛大学SDGs推進室のプラクティスとTHE Impact Ranking を生かした活動の創出	国連大学SDG-UP大学評価・アカウンタビリティー分科会（講演）	4 質の高い教育をみんなに 17 パートナーシップで目標を達成しよう	
5	教育	小林　修	国際連携推進機構	SDGsの概要と意義～地球沸騰時代に突入した今，愛媛の未来を予測し，社会システムと価値観のシフトについて構想する～	愛媛大学地域創生イノベーター育成プログラム（東予）	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに 13 気候変動に具体的な対策を 14 海の豊かさを守ろう 15 陸の豊かさも守ろう 16 平和と公正をすべての人に	
6	教育	小林　修	国際連携推進機構	Beyond SDGs 2030 – SDGsから見た世界各国の今と、2030年以降の私たちの暮らし	愛媛県立松山東高校課題研究	4 質の高い教育をみんなに 16 平和と公正をすべての人に 17 パートナーシップで目標を達成しよう	
7	教育	小林　修	国際連携推進機構	SDGs貢献人材として地球沸騰時代を生き抜く力を身につける！	愛媛大学高大連携事業、愛媛県立今治北高等学校特別講義	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに 13 気候変動に具体的な対策を 14 海の豊かさを守ろう 15 陸の豊かさも守ろう 16 平和と公正をすべての人に	

No.	活動内容	研究者氏名	研究者所属	タイトル	活動の詳細	関連するSDGs	写真・動画・ホームページなど （※文字をクリックすると、該当ページへ移動します。）
8	教育	小林　修	国際連携 推進機構	SDGs貢献人材として地球沸騰時代を生き抜く力を身につける！	愛媛大学高大連携事業、新田高校特別講義	7 13 14 15 16	
9	教育	小林　修	国際連携 推進機構	早期理科教育の重要性～視覚障がい者だからできるSDGsの解決につながるまちづくり～	愛媛大学高大連携事業、新田高校特別講義	4 10 17	
10	教育	小林　修	国際連携 推進機構	地球沸騰時代に森人が切り拓く未来～森の中で、森について学び、森のために行動し、そして森と共にあるくらしを実現する！～	愛媛県立上浮穴高等学校	7 13 14 15 16	
11	教育	小林　修	国際連携 推進機構	SDGs貢献人材として地球沸騰時代を生き抜く力を身につける！	愛媛県立伊予高等学校	7 13 14 15 16	
12	教育	小林　修	国際連携 推進機構	世界共通のゴール「SDGs」をヒントに地球沸騰時代を生き抜く～課題をニーズと捉えて，農業をより魅力的な仕事に！～	愛媛県立宇和高等学校	7 13 14 15 16	
13	教育	小林　修	国際連携 推進機構	世界共通のゴール「SDGs貢献人材として地球沸騰時代を生き抜き、積極的平和を築く力を身につける！	愛媛県立松山東高等学校（特別講義）	7 13 14 15 16	
14	教育	小林　修	国際連携 推進機構	SDGsに見る平和と環境	附属高校高大連携事業「グローバルスタディーズⅠ環境教育」	7 13 14 15 16	

No.	活動内容	研究者氏名	研究者所属	タイトル	活動の詳細	関連するSDGs	写真・動画・ホームページなど （※文字をクリックすると、該当ページへ移動します。）
15	教育	中井俊樹	教育・学生支援機構	カリキュラムにおけるSDGsの強化	共通教育に、未来思考支援科目（変化の時代を生き抜き、世界的課題を理解して地域や国内外に生じる未来に向けた課題解決に貢献できる人材となるための基礎的知識と思考力を身に付けるための科目）を必修科目として導入した。また、大学院の共通科目の導入にむけて、カリキュラムにおけるSDGsの強化を検討している。	4 質の高い教育をみんなに 11 住み続けられるまちづくりを 17 パートナーシップで目標を達成しよう	
16	教育	三上　了	法文学部	ウガンダフィールドワーク：フェアトレードコーヒーの生産地訪問	※この活動は2月１７日から２７日まで実施する予定です。ウガンダ西部のルウェンゾリ山周辺のコーヒー農家、生産者組合、輸出会社を訪問し、フェアトレード・インターナショナルの認証を受けた生産者組合と、受けていない組合ないし企業の下での農家の生活状況、生産活動を聞き取り調査する。	12 つくる責任 つかう責任	
17	教育	向　平和	教育学部	「第８回えひめの生物多様性守りたい！甲子園」への協力（ワークショップの開催および審査）	令和６年８月25日（日）に開催された本イベントに協力した。子どもたち向けの生物多様性について考えることができるワークショップを学生とともに企画実施した。また，高校生の発表会において審査委員も担当した。高校生向けの実地研修についても協力した。	4 質の高い教育をみんなに 14 海の豊かさを守ろう 15 陸の豊かさも守ろう	えひめ生物多様性あそまなフェス
18	教育	向　平和	教育学部	四国型次世代科学技術チャレンジプログラム （SHIN-GS）におけるトコロジストに関する講演会の実施	科学アントレプレナーシップの育成も目標に掲げており，生物多様性を守りながらキャリアにもつなげていくことを目的に，トコロジストに関する講演会を，SHIN-GSの開校式にて計画し実施した。	4 質の高い教育をみんなに 13 気候変動に具体的な対策を 17 パートナーシップで目標を達成しよう	
19	教育	松村暢彦	社会共創学部	環境デザインフィールド実習2	愛媛大学社会共創学部環境デザイン学科3年生の環境デザインフィールド実習２の授業で西予市明浜町狩江地区を訪問し、フィールドワークを実施した。狩江地域づくり活動センターにて、二宮さん（かりとりもさくの会）、亀井さん（地域おこし協力隊）、西村さん（西予市役所）を通して石積み体験、農業・漁業体験、まちあるきフィールドワークを行った。フィールドワークを通じて発見した狩江の魅力に関する90秒動画を作成した。	15 陸の豊かさも守ろう	
20	教育	李　賢映	社会共創学部	魚をまるごと食べよう！エコクッキング	フードロスの削減、地元の魚を使った地産地消、そして食卓に魚が頻繁に上がることを目指し、大人向けエコクッキング教室を開催、大学生～50代までの約20人が参加。季節に合わせたクリスマスレシピの提供を行った。イベントのはじめに魚や漁業に関する学びを行い、その後、調理を通してSDG s や地元食材を使用するということに触れてもらった。	12 つくる責任 つかう責任 13 気候変動に具体的な対策を 14 海の豊かさを守ろう	

No.	活動内容	研究者氏名	研究者所属	タイトル	活動の詳細	関連するSDGs	写真・動画・ホームページなど （※文字をクリックすると、該当ページへ移動します。）
21	教育	李　賢映	社会共創学部	高浜小学校における活動	松山市立高浜小学校５学年の児童を対象に、海岸の清掃活動「海探検でたからものを探そう」、海岸で拾った貝殻などの宝物を使った作品制作「たからものをこびんにつめよう」、まちの未来図の作成「高浜の未来図をかこう」の全３回の授業を実施した。	11 住み続けられるまちづくりを 12 つくる責任 つかう責任 14 海の豊かさを守ろう 15 陸の豊かさも守ろう	
22	教育	李　賢映	社会共創学部	まつやまRe・再来館（りっくる）でのイベント	まつやまRe・再来館（りっくる）にて、海洋プラスチック関連啓発展示および「エコクラフトでSDGs」イベントを実施した。	11 住み続けられるまちづくりを 12 つくる責任 つかう責任 14 海の豊かさを守ろう 15 陸の豊かさも守ろう	
23	教育	ルプレヒト　クリストフ	社会共創学部	「持続可能性科学」授業を担当	社会共創学部1年生（200名）必修科目「持続可能性科学」で、持続可能性の歴史的背景、概念の発展、幅広いセクターの背景、最先端の理論・議論・方法や学生のシナリオワークショップを担当した。	4 質の高い教育をみんなに 5 ジェンダー平等を実現しよう 8 働きがいも経済成長も 10 人や国の不平等をなくそう 11 住み続けられるまちづくりを 12 つくる責任 つかう責任 13 気候変動に具体的な対策を 15 陸の豊かさも守ろう	 持続可能性科学（シラバス）
24	教育	ルプレヒト　クリストフ	社会共創学部	持続可能性関連卒業研究指導	Multispecies Sustainability Laboratoryに所属する4年生4名が2024年度に以下のテーマの卒業研究で様々な側面でより持続可能な社会の実現に貢献した： 「森林養蜂普及に向けた課題や可能性の検討」「愛媛県の高速道路から見えるロードキルの現状と課題:ロードキル記録の体系化に向けて」「住むことを通じた人間と環境の繋がりのデザイン」「昆虫食の受容について:昆虫食の発展と消費者意識の関係」	2 飢餓をゼロに 11 住み続けられるまちづくりを 12 つくる責任 つかう責任 15 陸の豊かさも守ろう	Teaching　&　supervisionn/教育・指導・ゼミ
25	教育	ルプレヒト　クリストフ	社会共創学部	国際協力関連の学生企画イベント	グローバル共創人材育成(愛媛銀行)講座の一環で学生企画したイベント「本当に意味のある社会貢献：SDGs を語る前に、知るべきことがある」の支援を行った。	1 貧困をなくそう 2 飢餓をゼロに 3 すべての人に健康と福祉を 10 人や国の不平等をなくそう 12 つくる責任 つかう責任 17 パートナーシップで目標を達成しよう	
26	教育	ルプレヒト　クリストフ	社会共創学部	脱炭酸関連のイベント	グローバル共創人材育成(愛媛銀行)講座の一環で学生企画したイベント「脱炭素に向けて何を考えるべきか？LEGO®ブロックワークショップ」の支援を行った。	4 質の高い教育をみんなに 12 つくる責任 つかう責任 13 気候変動に具体的な対策を	

No.	活動内容	研究者氏名	研究者所属	タイトル	活動の詳細	関連するSDGs	写真・動画・ホームページなど （※文字をクリックすると、該当ページへ移動します。）
27	研究	高橋　真	農学研究科	インドネシア・マングローブ林における環境化学物質汚染の実態調査	マラッカ海峡近傍のインドネシアのマングローブ林は、活発な海運活動によって放出される様々な人工化学物質による影響を受けていることが懸念されている。そこでインドネシアのBRINの研究者らと共同で、本地域のマングローブ林の堆積物中に含まれる残留性有機ハロゲン化合物の調査を行い、生態系へのリスクを評価した。	9 産業と技術革新の基盤をつくろう 14 海の豊かさを守ろう 15 陸の豊かさも守ろう	ScienceDirect
28	研究	高橋　真	農学研究科	漁場環境保全関係研究開発推進会議有害物質研究会における講演「PFASの生体蓄積について～野生動物組織中からの検出事例を中心に～」	2024年11月に広島県廿日市市水産技術研究所で開催された令和6年度漁場環境保全関係研究開発推進会議有害物質研究会において講演を行った。とくに近年社会的に注目されているPFASについて、生物試料の分析法の開発や水生生物におけるPFASの蓄積実態や特徴について、最新の研究成果を報告し、水産研究関係者と今後のPFAS問題への対策等について協議した。	3 すべての人に健康と福祉を 14 海の豊かさを守ろう	
29	研究	佐藤　哲	SDGs推進室	SATREPSマラウイ統合資源管理 プロジェクトにおける国際共同研究の進展	JST-JICAの地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム（SATREPS）で、愛媛大学が研究代表機関となって実施している「マラウイ湖国立公園における統合自然資源管理に基づく持続可能な地域開発モデル構築プロジェクト（IntNRMSプロジェクト）」は、5年間の研究期間の4年目となり、順調に研究活動が進展している。地域の人々が自ら多様な自然資源の持続可能な管理を実現する仕組みについて 研究が深まっている。	1 貧困をなくそう 12 つくる責任つかう責任 17 パートナーシップで目標を達成しよう	IntNRMSプロジェクト
30	研究	佐藤　哲	SDGs推進室	室蘭工業大学の内閣府事業「戦略的イノベーション創造プログ ラム（SIP）」への参加	令和5年室蘭工業大学が内閣府事業「戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）」に採択され、2年目となり、この事業に主たる共同研究機関として参加しています。「Society5.0時代の農業における「新たな『学び』×働き方」のショーケースの提示と実証」という研究テーマで共同研究を実施している。	8 働きがいも経済成長も 11 住み続けられるまちづくりを 12 つくる責任つかう責任	
31	研究	佐藤　哲	SDGs推進室	Sustainability Research+Innovation Congress (SRI) における研究発表	サステナビリティに関する研究や実践に携わる人々が分野やセクターを超えて集まり、知見やアイデアを共有する国際研究会議「Sustainability Research+Innovation Congress (SRI)2024 」が、フィンランド・ヘルシンキにおいて6月10日から14日に開催された。この会議に参加し、だてプロセッションにおいて発表とディスカッションを行い、最新のトランスディシプリナリー研究について情報を収集した。	8 働きがいも経済成長も 11 住み続けられるまちづくりを 12 つくる責任つかう責任	
32	研究	佐藤　哲	SDGs推進室	The International symposium on Transdisciplinaryにおいて発表	7月25日にハサヌディン大学（インドネシア・マカッサル市）で開催された（The International symposium on Transdisciplinary）においてマラウイ側共同研究者と共に3件の発表を行い、ポスターセッションに参加して議論を深めた。	1 貧困をなくそう 12 つくる責任つかう責任 17 パートナーシップで目標を達成しよう	
33	研究	佐藤　哲	SDGs推進室	持続可能な海洋環境の構築	8月20日に南予水産研究センターの後藤理恵さんと斎藤大樹さんとともにアメリカフロリダ州サラソタ市のMote海洋研究所においてセミナーを開催し持続可能な海洋環境の構築について議論した。	9 産業と技術革新の基盤をつくろう 14 海の豊かさを守ろう	

No.	活動内容	研究者氏名	研究者所属	タイトル	活動の詳細	関連するSDGs	写真・動画・ホームページなど （※文字をクリックすると、該当ページへ移動します。）
34	研究	ルプレヒト クリストフ	社会共創学部	「持続可能性理論」の新科目開発	応用に集中しがちなSDGs関連活動の中、日本初の持続可能性の理論に焦点を与える科目を開発し2024年後期から開講した。		 持続可能性理論（シラバス）
35	研究	ルプレヒト・笠松・ 島上・徳岡・ 竹下・ 向・ ヒディング	社会共創学部 教育学部 国際連携推進機構	愛大・マルチスピーシーズ・キャン パスの全体運営	様々な教職員の支援をいただきながら、「すべてのいきものが共に創る、すべてのいきものが共生できる」というキャッチフレーズで持続可能なキャンパスの実現を目指す「マルチスピーシーズ・キャンパス」プロジェクトを継続し運営した。		 Ehime University Multispecies Campus / 愛媛大学マルチスピーシーズ・キャンパス
36	研究	ルプレヒト クリストフ	社会共創学部	愛大附属高校課題研究指導	持続可能性に関する愛大附属高校課題研究をツクシ・ヨモギ、ニホンミツバチ、ムクドリ関連で3件指導した。		
37	研究	ルプレヒト クリストフ	社会共創学部	マルチスピーシーズ・キャンパス：ビオトープづくり	キャンパスの生物多様性にむけて、ビオトープづくりを始めた。		
38	研究	徳岡　良則	社会共創学部	東日本の畑地景観における生物文化多様性の評価	東日本の畑地境界に植栽されていた境木の種構成とその歴史的・文化的意義を調査した。ウツギは少なくとも近世から広く普及し、葬儀や祭り、農業、季節指標など多用途で地域文化に根付いている可能性が示唆された。一方で、ガマズミとタニウツギは東北の一部に局在し、養蚕業とともに拡大したクワの栽培も境木の分布に影響を与えた。本研究は、文化・自然・産業の相互作用が境木の地域構成を動的に形成することを示し、伝統的農業景観の理解とその保護に向けては、歴史生態学的アプローチが有効となることを示した。		 SPRINGER　NATURE
39	研究	上野　秀人	農学研究科	地域資源や生物機能を活用した持続可能な食料生産技術の開発研究	化学肥料は、石油やリン鉱石、カリ鉱石などの有限な地下資源を掘り出し、エネルギーを用いて製造、輸送、使用されているため、持続的な農業生産と逆行しているばかりでなく、地球温暖化ガスを発生させている。これを解決するため、マメ科植物を用いた窒素固定、地域から排出される有機物を利用した養分供給、バイオ炭施用による土壌機能強化を行うことにより、持続可能な農業生産技術の開発研究を行った。		

No.	活動内容	研究者氏名	研究者所属	タイトル	活動の詳細	関連するSDGs	写真・動画・ホームページなど （※文字をクリックすると、該当ページへ移動します。）
40	社会貢献	高橋　真	農学研究科	松山市SDGs推進協議会における会長	内閣府によるSDGs未来都市に選定された松山市SDGs推進協議会は、経済・社会・環境の3側面の統合的取組による相乗効果の創出をもたらすべく、多様な会員企業との連携の下、自律的好循環を構築するモデル事業などを推進している。本年度、前西村会長から、この協議会の会長を引継ぎ、活動を行った。	7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに 9 産業と技術革新の基盤をつくろう 11 住み続けられるまちづくりを	
41	社会貢献	高橋　真	農学研究科	西条市SDGs推進協議会における会長	西条市は、令和3年度にSDGs未来都市及び自治体モデル事業として選定されたことから、SDGs推進協議会を立ち上げた。本協議会は、人口減少及び少子高齢化が急速に進展する中、多様な関係主体が参画して切磋琢磨することを通じて未来に向けた競争力を強化するとともに、相互に連携して「持続可能な西条市2050」の実現に向けた各種課題の解決を図るものである。令和5年2月に任意団体から一般社団法人化した。本年度、前西村代表理事からこの協議会の代表理事を引継ぎ、活動を行った。	8 働きがいも経済成長も 11 住み続けられるまちづくりを 17 パートナーシップで目標を達成しよう	
42	社会貢献	高橋　真	農学研究科	持続可能な道後温泉協議会における委員	持続可能な道後温泉協議会は、道後温泉地域全体のSDGsの取り組みを推進する「持続可能な道後温泉協議会」で、愛媛大学が主体となり、地元団体や行政が経費を負担しながら連携し、ひみつジャナイ基地を活用しながら、持続可能な道後温泉に向けて取り組むものである。本協議会の委員として活動した。	8 働きがいも経済成長も 11 住み続けられるまちづくりを 17 パートナーシップで目標を達成しよう	
43	社会貢献	高橋　真	農学研究科	愛媛県環境審議会における委員	愛媛県環境審議会の委員として参画し、愛媛県の環境の保全や自然環境の保全に関する重要事項等について調査審議を行った。とくに本年度は、令和７年度公共用水域及び地下水の水質測定計画および第四次えひめ環境基本計画の策定にあたり専門的な見地から様々な意見、提言を行った。	6 安全な水とトイレを世界中に 13 気候変動に具体的な対策を 14 海の豊かさを守ろう 15 陸の豊かさも守ろう 17 パートナーシップで目標を達成しよう	
44	社会貢献	高橋　真	農学研究科	国連大学SDG大学連携プラットフォームへの参加活動	本プラットフォームの狙いは、国連大学サステナビリティ高等研究所が主体となって、SDGsに積極的に取り組む意欲ある大学と連携し、国際経済社会の動向を踏まえた大学の取組み（人材育成も含め）を総合的に強化し、国内外に発信するための基盤づくりをすることにあるとしている。これに参加することで、他大学の活動を参考にするとともに、大学間連携で新たな試みが実施されている。この国連大学SDG大学連携プラフォームに参加活動した。	4 質の高い教育をみんなに 17 パートナーシップで目標を達成しよう	
45	社会貢献	高橋　真	農学研究科	「LOVE SAIJOビジネスコンテスト2024」における実行委員長	本コンテストでは、西条市が誇る様々な地域資源やSDGsの取り組みに着目し、ビジネスアイディアで形にすることで、西条市の抱える様々な課題を解決する新たなビジネスプランを県内外から募集し、地域の企業、専門家等のサポートのもとその具体化と実現を図り、将来に継続することを目的として実施するもので、そこでの実行委員長を務めている。	8 働きがいも経済成長も 9 産業と技術革新の基盤をつくろう 11 住み続けられるまちづくりを	

No.	活動内容	研究者氏名	研究者所属	タイトル	活動の詳細	関連するSDGs	写真・動画・ホームページなど （※文字をクリックすると、該当ページへ移動します。）
46	社会貢献	高橋　真	農学研究科	「LOVE SAIJOビジネスコンテスト2024」オープニングイベントでの事例紹介	LOVE SAIJO ビジネスコンテストの概要及び求められるSDGsビジネスの事例を取り挙げるとともに、自身がこれまでに行ってきた廃食用油の回収・再資源化・地域の高校生・大学生との共同事業などを紹介した。	8 働きがいも経済成長も 9 産業と技術革新の基盤をつくろう 12 つくる責任つかう責任	
47	社会貢献	佐藤　哲	SDGs推進室	日本海水学会若手会第15回学生研究発表会特別講演会で講演	北海道伊達市において、日本海水学会若手会第15回学生研究発表会特別講演会において、SDGs推進に向けたトランスディシプリナリー科学について講演を行った。	1 貧困をなくそう 12 つくる責任つかう責任 17 パートナーシップで目標を達成しよう	
48	社会貢献	佐藤　哲	SDGs推進室	室蘭工業大学第4回クリエイティブコラボレーションセンターワークショップ　講演	3月5日室蘭工業大学第4回クリエイティブコラボレーションセンターワークショップにおいて、『社会の本質的転換をうながす超学際科学：複雑で困難な課題に立ち向かうために』と題して、講演と議論を行った。	1 貧困をなくそう 12 つくる責任つかう責任 17 パートナーシップで目標を達成しよう	
49	社会貢献	佐藤　哲	SDGs推進室	琉球大学のSDGs関連事業の アドバイザー	琉球大学が沖縄県の委託を受けて実施している「大学発SDGs社会 課題解決型科学技術プロジェクト創出事業」において、社会課題の解 決を目指す科学技術プロジェクトの創出と支援を担当するアドバイザーを務めている。	9 産業と技術革新の基盤をつくろう 11 住み続けられるまちづくりを 17 パートナーシップで目標を達成しよう	
50	社会貢献	佐藤　哲	SDGs推進室	琉球大学の大学発SDGs社会課題解決型科学技術プロジェクト創出支援事業のアドバイザー	11月20日　琉球大学の大学発SDGs社会課題解決型科学技術プロジェクト創出支援事業のアドバイザーとして沖縄科学技術大学院大学の新里瞳氏が代表を務める（外来種植物の繊維材料活用検討プロジェクト）のサイトビジットを行い沖縄県大宜味村の外来植物対策の現場を訪問して研究の進め方に関する議論を行った。	12 つくる責任つかう責任 15 陸の豊かさも守ろう	
51	社会貢献	佐藤　哲	SDGs推進室	琉球大学大学発SDGs社会課題解決型科学技術プロジェクト創出支援事業の成果報告会	2月28日に沖縄県那覇市において開催された、琉球大学大学発SDGs社会課題解決型科学技術プロジェクト創出支援事業の成果報告会に参加し5件のプロジェクトの成果について議論を行った。	3 すべての人に健康と福祉を 9 産業と技術革新の基盤をつくろう 17 パートナーシップで目標を達成しよう	
52	社会貢献	佐藤　哲	SDGs推進室	日本ユネスコ国内委員会・人間 と生物圏（ＭＡＢ）計画分科会委員	日本におけるユネスコエコパーク（生物圏保存地域）の登録と活用の 取組を支援する「日本ユネスコ国内委員会 科学小委員会人間と生物 圏（ＭＡＢ）計画分科会」の調査委員を務めている。	11 住み続けられるまちづくりを 14 海の豊かさを守ろう 15 陸の豊かさも守ろう	
53	社会貢献	佐藤　哲	SDGs推進室	「一般財団法人サンクゼール財団」の助成事業の選考委員	「一般財団法人サンクゼール財団」の助成事業の選考委員に任命されました。子どもや生活困窮者等の貧困対策、発展途上国・紛 争地帯・難民等への支援と、個人や団体への助成事業を行う財団で、 国内外のさまざまな課題への貢献が期待される。	1 貧困をなくそう 3 すべての人に健康と福祉を 11 住み続けられるまちづくりを	

No.	活動内容	研究者氏名	研究者所属	タイトル	活動の詳細	関連するSDGs	写真・動画・ホームページなど （※文字をクリックすると、該当ページへ移動します。）
54	社会貢献	佐藤　哲	SDGs推進室	西予市ツル・コウノトリと共生するまちづくり計画（実行計画）策定委員会	西予市ツル・コウノトリと共生するまちづくり計画（実行計画）策定委員会委員長を務めている。	11 住み続けられるまちづくりを 15 陸の豊かさも守ろう	
55	社会貢献	小林　修	国際連携推進機構	SDGs課題を理解して東温市の未来をデザインする～グローカルな視点で，選ばれる東温市の未来像を考える～	東温市役所職員研修	4 質の高い教育をみんなに 11 住み続けられるまちづくりを 17 パートナーシップで目標を達成しよう	
56	社会貢献	小林　修	国際連携推進機構	SDGsの達成に貢献する人材の育成に果たすESDの在り方～激変する時代を行く抜く力を育む～	MIC（まつやま国際交流センター）ESDコーディネーター派遣事業（研修）	4 質の高い教育をみんなに 13 気候変動に具体的な対策を 14 海の豊かさを守ろう 15 陸の豊かさも守ろう 16 平和と公正をすべての人に 17 パートナーシップで目標を達成しよう	
57	社会貢献	小林　修	国際連携推進機構	人新世・地球沸騰時代の現状と未来～激変する地球でいかに生き延びるか、それとも地球から飛び出すか～	令和6年度坂の上の雲ミュージアム大学連携市民講座	7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに 13 気候変動に具体的な対策を 14 海の豊かさを守ろう 15 陸の豊かさも守ろう 16 平和と公正をすべての人に	
58	社会貢献	小林　修	国際連携推進機構	人新世・地球沸騰時代の現状と未来～激変する地球でいかに生き延びるか，それとも地球から飛び出すか～	令和6年度第5ブロック青年赤十字奉仕団研修会	7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに 13 気候変動に具体的な対策を 14 海の豊かさを守ろう 15 陸の豊かさも守ろう 16 平和と公正をすべての人に	
59	社会貢献	小林　修	国際連携推進機構	SDGs課題を理解して砥部町の未来をデザインする～グローカルな視点で，選ばれる砥部町の未来像を考える～	砥部町職員研修	4 質の高い教育をみんなに 11 住み続けられるまちづくりを 17 パートナーシップで目標を達成しよう	
60	社会貢献	小林　修	国際連携推進機構	自らの未来を創造するために	令和6年度第2回「創造クラス」（基調講演）、松山市SDGs推進協議会	4 質の高い教育をみんなに 13 気候変動に具体的な対策を 16 平和と公正をすべての人に	
61	社会貢献	小林　修	国際連携推進機構	演習林へ行って、森と木を知ろう	松山ロータリークラブ第22階サマー・スクール（体験講座）	4 質の高い教育をみんなに 13 気候変動に具体的な対策を 15 陸の豊かさも守ろう	

No.	活動内容	研究者氏名	研究者所属	タイトル	活動の詳細	関連するSDGs	写真・動画・ホームページなど （※文字をクリックすると、該当ページへ移動します。）
62	社会貢献	小林　修	国際連携 推進機構	愛媛銀行主催「ひめ銀ecHoの森」森林体験講座	愛媛銀行主催森林体験講座	4 質の高い教育をみんなに 13 気候変動に具体的な対策を 15 陸の豊かさも守ろう	
63	社会貢献	小林　修	国際連携 推進機構	四国の未来をともに創る「ESD for SDGs　新居浜ESD for SDGsリレートーク	四国ESDフォーラム2025「やっぱり！なるほど！ESD！」×新居浜市SDGs推進プラットフォーム全体会「Hello! New 新居浜」	4 質の高い教育をみんなに 11 住み続けられるまちづくりを 17 パートナーシップで目標を達成しよう	
64	社会貢献	小林　修	国際連携 推進機構	自然の恵みを新たなビジネスチャンスに！～ネイチャーポジティブ経済を考える～	パネルディスカッション　ファシリテーター」、令和6年度第3回まつやまSDGsカフェ	4 質の高い教育をみんなに 8 働きがいも経済成長も 11 住み続けられるまちづくりを 17 パートナーシップで目標を達成しよう	
65	社会貢献	小林　修	国際連携 推進機構	SDGs市民参加型　蒼社川支障木活用プロジェクト	今治市役所　市民が真ん中課	4 質の高い教育をみんなに 13 気候変動に具体的な対策を 14 海の豊かさを守ろう 15 陸の豊かさも守ろう	
66	社会貢献	小林　修	国際連携 推進機構	砥部町環境学習会　砥部町立宮内小学校	砥部町環境学習会　砥部町立宮内小学校	7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに 13 気候変動に具体的な対策を 14 海の豊かさを守ろう 15 陸の豊かさも守ろう 16 平和と公正をすべての人に	
67	社会貢献	鈴木　靜	ジェンダー協働 推進センター	サイエンスひめこ塾2024	8月23日、小学校就学児を対象とし、愛媛大学理系女子学生グループ「サイエンスひめこ」が講師になり、実験教室を行った。	4 質の高い教育をみんなに 5 ジェンダー平等を実現しよう	
68	社会貢献	鈴木　靜	ジェンダー協働 推進センター	女子中高生のためのロードマップtoサイエンス2024	11月16日、次世代科学人材育成拠点と共催で、女子中高生向けに理系進学に関する講演、実験室見学と体験、大学生とのグループワークを実施した。あわせて保護者向けの説明会や質問を受ける機会を作り、理系進学への心理的障壁を削減するよう努力した。	4 質の高い教育をみんなに 5 ジェンダー平等を実現しよう	

No.	活動内容	研究者氏名	研究者所属	タイトル	活動の詳細	関連するSDGs	写真・動画・ホームページなど （※文字をクリックすると、該当ページへ移動します。）
69	社会貢献	鈴木　靜	ジェンダー協働推進センター	「男性だけに偏るイベントを避けるためのガイドライン」について愛媛新聞ONLINEに記事掲載	令和6年2月6日に策定した「男性だけに偏るイベントを避けるためのガイドライン」について、策定に携わったSDGs推進室の西村室長（当時）、ルプレヒト准教授及びジェンダー協働推進センターの鈴木センター長の取材記事が愛媛新聞ONLINEに掲載された。ほか、共同通信、朝日新聞などでも掲載された。	5 ジェンダー平等を実現しよう	Special E
70	社会貢献	仲道　雅輝	教育・学生支援機構	SDG s ビーチクリーンプロジェクト～ビーチの石をなくそう大作戦～	愛媛大学の学生が、伊予北条の土手内漁港付近の海岸において「次世代につなげるビーチ・クリーン」をテーマに、地域のニーズの把握、地域の方々との交流、企業や地方自治体との連携を行い、SDGsの活動を通じた地域への貢献を目指して、ビーチ・クリーンを実施した。この取組では、①きれいなだけじゃない海を知る、②継続できるビーチ・クリーンを考える、③ごみを拾った後の責任まで考える、の3つの目標を掲げた。特に、継続した活動としていくために、学生同士の交流の時間をもつとともに、拾った後の責任までを考え、すべてのごみを自分たちで分別して指定場所までもっていくこと等をルールとしている。	11 住み続けられるまちづくりを 12 つくる責任 つかう責任 13 気候変動に具体的な対策を 14 海の豊かさを守ろう 15 陸の豊かさも守ろう	
71	社会貢献	大久保　武	大学院地域レジリエンス学環	地域創生マーケティングサミット～地方創生に必要なマーケティング志向とは？～地域創生トークセッションに登壇	地域創生Coデザイン研究所とQUINTBRIDGEが主催するイベントのトークセッションに登壇し、地域が戦略的に持続可能性を高めていくための意見交換を行った。	8 働きがいも経済成長も 11 住み続けられるまちづくりを 17 パートナーシップで目標を達成しよう	地域創成マーケティングサミット
72	社会貢献	大久保　武	大学院地域レジリエンス学環	第6期社会構想大学院大学・地域プロジェクトマネージャー養成課程で講義	急速な人口減少・少子高齢化社会に突入する中、より戦略的な視点から地域の課題を捉えて地域創生の実現に導く「地域プロジェクトマネージャー」を育成することを目的に、同課程において地域創生とEBPM①②の講義を担当した。	8 働きがいも経済成長も 11 住み続けられるまちづくりを 17 パートナーシップで目標を達成しよう	社会構想大学院大学 先端教育研究所
73	社会貢献	大久保　武	大学院地域レジリエンス学環	宇和島市電子地域ポイント（RUC POINT）事業の効果測定事業	宇和島市が実施するRUCPOINT事業が取組開始から1年が経過することを受け、宇和島市役所との協働体制により、今後の更なる事業の発展に向けた課題の検証と発展策の検討を行うための調査を行った。（令和6年3月まで実施予定）	8 働きがいも経済成長も 11 住み続けられるまちづくりを 17 パートナーシップで目標を達成しよう	
74	社会貢献	大久保　武	大学院地域レジリエンス学環	愛媛大学地域創生イノベーター育成プログラム（南予）で人口減少とまちづくりのあり方について講義	愛媛大学地域創生イノベーター育成プログラム（南予）で「地域別人口推計をまちづくりに活かす」と 題して講義を行った。	8 働きがいも経済成長も 11 住み続けられるまちづくりを 17 パートナーシップで目標を達成しよう	地域創生イノベーター育成プログラム（南予）
75	社会貢献	入江　賀子	社会共創学部	久万高原町での地域循環共生活動	久万高原町役場、林業商社天空の森と、林業者など地域ステークホルダーのWS開催などによる久万高原町での地域循環共生活動を行った。	7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに 8 働きがいも経済成長も 11 住み続けられるまちづくりを 13 気候変動に具体的な対策を	

No.	活動内容	研究者氏名	研究者所属	タイトル	活動の詳細	関連するSDGs	写真・動画・ホームページなど （※文字をクリックすると、該当ページへ移動します。）
76	社会貢献	入江　賀子	社会共創学部	地域循環共生協議会の開催	大学における地域循環共生に関する協議会の主催と地域自治体、企業参加者への声掛けを行った。		
77	社会貢献	松村　暢彦	社会共創学部	のむら復興まちづくりデザインプロジェクト	西日本豪雨の被災地、西予市野村地区の復興まちづくりを進めるにあたって、住民参画型ののむら復興まちづくりデザインプロジェクトを西予市野村支所、地域住民、野村高校生、愛媛大学生らとともに支援している。令和6年度は5回のワークショップを開催し、主にどすこいパークの右岸側、防災広場、菜園・林の広場のパークマネジメントについてディスカッションを行って方向性を決めた。また、防災広場にて地元消防団と協力してかまどベンチやマンホールトイレなどの防災施設の利用体験のイベントを実施した。		
78	社会貢献	ルプレヒト クリストフ	社会共創学部	マルチスピーシーズ・キャンパス：幼稚園のためのインセクトホテル	プロジェクト授業の学生がマルチスピーシーズキャンパスづくりのプロジェクトの一環で、キャンパスでプロトタイプを試した上、松山しののめ認定こども園のためにインセクトホテルを作成した。		
79	社会貢献	ルプレヒト クリストフ	社会共創学部	松山東高校での講演「人新世を生きる恐怖と希望」	2024年5月に、松山東高等学校の生徒360名を対象に、私たちが直面する様々な持続可能性関連の課題を紹介し、個人だけでなく連携し行動を起こすことでどのように課題を解決できる方法について講演した。		
80	社会貢献	武部　博倫	理工学研究科	太陽電池パネル廃ガラスを利用した道後温泉本館靴箱キーホルダー用ゴールドルビーガラスの開発	太陽電池パネル廃ガラスを用いて、当研究室が作製したゴールドルビーガラス（金のナノ粒子を分散させた赤色ガラス）が2024年7月11日より全館営業再開された道後温泉本館の新しい靴箱キーホルダーに採用されている。		道後温泉本館全館営業再開・改築130周年記念「”赤いギヤマン”特別展示会」

No.	活動内容	研究者氏名	研究者所属	タイトル	活動の詳細	関連するSDGs	写真・動画・ホームページなど （※文字をクリックすると、該当ページへ移動します。）
81	国際貢献	佐藤　哲	SDGs推進室	国立大学法人愛媛大学とマラウイ大学との学術交流に関する大学間協定	国立大学法人愛媛大学とマラウイ大学との学術交流に関する大学間協定が2019年11月13日に締結されてから5年がたち、両者の合意を得て、更新された。	1 貧困をなくそう 12 つくる責任 つかう責任 17 パートナーシップで目標を達成しよう	
82	国際貢献	佐藤　哲	SDGs推進室	日本とマラウイの相互交流	「マラウイ統合資源管理プロジェクト」において、マラウイと日本の間の研究者の交流が継続している。日本からは愛媛大学、東京農業大学、龍谷大学、長野大学、横浜国立大学から延べ12名の研究者がマラウイを訪問し、調査を行った。マラウイからは2名が短期共同研究員として 東京大学、東京農業大学で共同研究を行い、また3名が東京大学、東京農業大学、鹿児島大学の博士後期課程、1名が愛媛大学の博士前期課程で研究している。	1 貧困をなくそう 12 つくる責任 つかう責任 17 パートナーシップで目標を達成しよう	
83	国際貢献	向　平和	教育学部	国際学会の企画実施におけるSDGsに資する内容	令和6年10月12日～15日（エクスカーションを含む）にアジア生物学教育協議会第29回隔年会議（AABE2024）を実施した。本会議のテーマは「Perspectives for global well-being: biology education in the integrated learning」であり，SDGsに資する発表，ワークショップ，エクスカーションが実施された。	4 質の高い教育をみんなに 10 人や国の不平等をなくそう 17 パートナーシップで目標を達成しよう	 アジア生物学教育協議第29回会隔年会議（AABE 2024）
84	国際貢献	ルプレヒト　クリストフ	社会共創学部	愛媛大学のNature Positive Universitiesネットワーク参加	複数人の指導学生が秋開始のプログラムに申し込みStudent Ambassadorになり、愛媛大学がネットワークのメンバーになりました。	4 質の高い教育をみんなに 15 陸の豊かさも守ろう 17 パートナーシップで目標を達成しよう	 NATURE POSITIVE